

大会定期十回勤労千葉



勤労千葉の真面目な闘争時代に入った。挨拶に立つ副委員長(左)と千葉クラブホテル

7回定期大会開幕(9/30)

代議員・傍聴者 200名が結集して

など二〇〇の席が満席になる中、定刻の10時、山口副委員長の開会のあいさつで始まった。資格審査の結果が森内議運委員長から発表され、大会成立宣言が満場の拍手で確認された。議長団には真藤代議員(幕張)と繁沢代議員(千葉)が選出され、代表して真藤代議員のあいさつをうけ、議事に入った。

「大会事務局・役員指名、スローガン提起」に続いて、副委員長から、次のような挨拶が行われた。

「政府・自民党の攻撃は、軍事大団化・改憲、労働右翼『統一』など、労働運動の一部をまきこんで、ますますい攻撃が激化している。勤労本部『革マル』は、『この運動』で、トレ裏切りに見られるように全面屈服し、ますます反動性をあらわにしてきている。本大会を成功させ、10月三里塚への総決起を突破口に、一切の反動を打ち破って前進しよう。」

各界から多くの来賓
かかけつけ、教励

続いて、千葉県労連・清水事務局長、83年参院選千葉地区社会党候補・糸久重子氏、衆院選

明報 迅速

大会は広い会場に代議員傍聴者・家族組合員

勤労千葉7回定期大会は、昨日、九月三十日、十時より千葉市内千葉クラブホテルにおいて、代議員・傍聴者・家族組合員など約二〇〇名が参加する中で開催された。今日、自民党支配階級は、軍事大団化・改憲、侵略戦争政策の激化と臨調・行革攻撃、即ち拠点つぶしとしての、国鉄労働運動解体・三里塚反対同盟破壊、ボ二同盟づくりなど、極めてますますい攻撃をかけてきている。こうした厳しい情勢の中で、われわれは、本定期大会を圧倒的に成功させ、10月三里塚現地闘争に総決起し、57日ダイ改阻止・国鉄労働運動解体攻撃と対決し、情勢の大きな転換をかちとっていかねばならない。

議長団に、真藤、繁沢を選出

千葉二区社会党候補・辻田史氏、赤桐操参院議員、千葉市議・小川義人氏、などから教励の挨拶をうけた。また、仙台からかけつけられた全金本山労組・八重樫委員長から「支配階級の反動攻撃の激化の中で、真に即おうとする仲間、労組の間の連帯は、広がってきている。全国の多くの仲間が三里塚に注目し、勤労千葉との連帯・交流を求めている。われわれは大胆に踏み出さなければならぬ」との訴えを受けた。

決意が述べられ、満場のひととき高い拍手と歓声がこれにこたえた。

続いて、ジェット闘争支援共闘会議代表の浅田光輝氏、はるばる関西よりかけつけられた関西実行委・加辺永吉氏、より心のこもった教励、連帯の挨拶をうけた。議運の八木代議員(新小岩)から、読みきれないほど沢山のメッセージ・檄電が紹介された。議事は、「協約協定締結」「決算報告」「会計監査報告」「組織財政検討委員会答申」の報告と続き、最後に、質疑討論に入った。

「菅野弁護士、勤労千葉支援基金運動の先頭をたてておられる労働運動研究家・高島喜久男氏、から教励の挨拶をうけたのち、山口副委員長より約一時間に行たり、「一般経過報告」。12時40分、昼食・休憩。

革マルのデマ攻撃を弾劾し、反対同盟北原事務局長が断固たる決意

13時40分より、午後の議事を再開。冒頭に、三里塚芝山連合空港反対同盟を代表して、北原事務局長と三浦五郎さんから報告と挨拶と決意をうけた。特に、北原事務局長からは、革マルの権力・公団と一体となった卑劣なデマ宣伝を怒りをこめて徹底粉砕し、10月集会の大爆発で断固闘いぬく、この力強い

討論

路線の正義性・勝利性に確信あふれる 活発な発言が続く

「経過報告」に対する質疑討論は、約二時間にわたって、九名の代議員からの発言と、執行部答弁で熱気あふれるものであった。各代議員の主な発言要旨は、①この厳しい情勢、攻撃の中で、組合員は誰一人として無気力や投げやりにならず、意気軒昂として闘いぬいていく。②これは、勤労千葉の路線の正義性にある。③「ジェット闘争の地平を守り、労働連帯」「革マルとの対決」「労働運動の原点を堅持して闘ってきたことの成果である。④確信固く、80年代に通用する自前の労働運動」「一人一人が活動家」を合言葉に、更に前進しよう。⑤当面の10月三里塚への総決起、それをハネに57日合理化粉砕へ。最後に中野書記長の総括答弁で、本日終了。